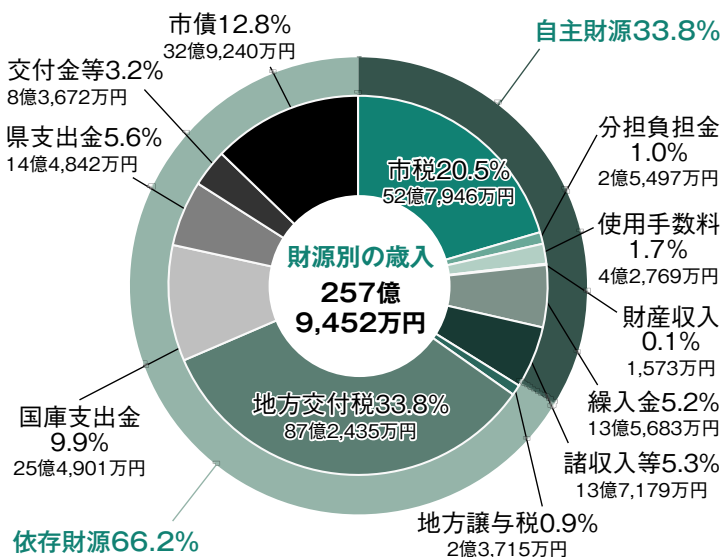


# 平成30年度 決算報告



平成30年度の安来市の決算を9月に開催の市議会定例会議に提出しました。ここではその概要をお知らせします。

## 歳入の総額は257億9千万円



歳入の主なものは、市税や地方交付税、市債です。個人市民税、法人市民税、固定資産税の減により、市税全体では対前年比24,808千円の減となりました。

地方交付税は、合併に伴う特例の縮減(70%)などの影響により基準が下がったため、普通交付税は前年度比268,817千円の減、特別交付税は11,494千円の増となりました。

また、市債は大型建設事業の終了などにより対前年比1,144,900千円の減となりました。

### 【用語】

■交付税：自治体間の財源の不均衡を調整し、すべての自治体が一定の水準を維持できるよう財源を保障するため、国税を一定の基準によって再配分する税です。国が地方に代わって徴収する地方税という性格をもっています。

■地方債：自治体が財政上必要とする資金を外部から調達する債務です。その履行が一会計年度を超えて行われるものをいいます。原則として建設事業費の財源を調達する場合などに発行します。

## 歳出の総額は254億6千万円

グラフは12種類の目的別に割合を示しています。

■民生費：障がい者や高齢者福祉、生活保護、国民年金などの事業に使う経費です。国民健康保険や後期高齢者医療、介護保険の特別会計への支出も含まれます。

■衛生費：ごみの処理や公害対策などの事業に使う経費です。水道事業や病院事業への支出も含まれます。

■労働費：労働福祉の事業に使う経費です。

■農林水産業費：農業・林業・水産業振興の事業に使う経費です。

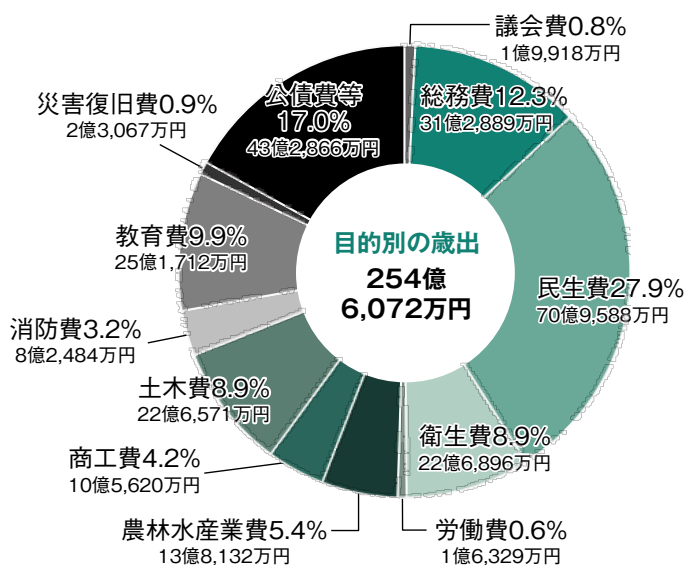
■商工費：商工業や観光振興などの事業に使う経費です。

■土木費：道路や公園などの事業に使う経費です。下水道事業への支出も含まれます。

■消防費：消防、防災事業などに使う経費です。

■教育費：学校教育、生涯学習、スポーツ振興などの事業に使う経費です。

■災害復旧費：災害によって被害を受けた設備や施設を復旧するための経費です。



## 平成 30 年度の決算の概要

一般会計決算の状況は、歳入総額 25,794,522 千円（前年度比 7.58% 減）に対し、歳出総額 25,460,729 千円（前年度比 7.57% 減）となりました。形式収支は 333,793 千円です。

なお、年度内に完了が困難となった事業として、工業団地整備事業 38,853 千円、安来港飯島線などの道路改良事業 230,308 千円、橋りょう維持事業 42,549 千円をはじめ、国の第 2 次補正予算に対応した小中学校空調整備事業 213,240 千円等、計 12 事業 662,457 千円があります。これらは平成 31 年度へ予算を繰り越しています。

一般会計の年度末の地方債残高は、前年度比 203,964 千円減の 38,275,057 千円となり、基金現在高（土地開発基金を除く）は、前年度比 644,278 千円減の 7,100,701 千円となりました。

## 行政改革の取り組み

中長期的な財政計画が厳しさを増す中、多様化する市民ニーズを的確に把握し、事業の成果や優先順位を検証し、類似事業の統合、必要性の低い事業な

どの見直しを図り、緊急・必要性の高い事業を選択しました。

第 3 次行政改革大綱・実施計画で定めた取り組みを実施することで、歳出の一定の適正化、将来負担の軽減を図りました。安来市が将来にわたって最適な公共施設の維持管理、運営を行うために策定した「公共施設等総合管理計画」の基本方針に基づき行政改革を進めました。

## ふるさと寄附の取り組み

この制度は、好きな地域（都道府県、市区町村）を選んで寄附ができる仕組みです。新規返礼品の追加や、新規ポータルサイト（Wowma! ふるさと納税）の開設、首都圏での新聞広告等での PR を行うことによって寄附金額の増加を図りました。

また、寄附金使途報告チラシの寄附者への送付や、情報科学高等学校の生徒と共同制作したどじょう料理レシピ BOOK 等によって、リピーターの獲得にも取り組みました。

◎平成 30 年度の寄附額 473,102,715 円  
件数（延べ） 14,538 件

【参考】平成 29 年度 401,951,906 円（16,107 件）

## 特別会計等の 決算状況

安来市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険事業や介護保険事業などの「特別会計」、水道事業や病院事業などの「公営企業会計」があります。

いずれも国民健康保険税や介護保険料、水道料金や医業収入など特定の収入を財源に事業を行っており、その収支状況を明確にするため一般会計とは分けています。

会計名	歳入（収入）		歳出（支出）		
	平成 30 年度	対前年度増減	平成 30 年度	対前年度増減	
特別会計	国民健康保険	4,631,025	▲ 666,889	4,573,918	▲ 523,086
	後期高齢者医療	1,089,191	▲ 11,103	1,078,450	▲ 10,719
	介護保険	5,088,876	86,515	4,840,807	81,418
	電気	48,994	▲ 27,943	45,196	▲ 29,505
	下水道	2,987,341	▲ 146,229	2,985,241	▲ 146,696
	母里財産区	1,124	367	23	▲ 26
	井尻財産区	206	▲ 39	21	▲ 22
	赤屋財産区	148	▲ 54	32	▲ 25
公営企業会計	水道（収益的）	1,138,202	▲ 13,703	1,163,071	▲ 63,292
	水道（資本的）	643,892	83,725	933,231	87,697
	市立病院（収益的）	2,992,557	▲ 18,343	2,930,215	19,507
	市立病院（資本的）	167,448	66,906	489,863	63,291

（単位：千円）





## 安来市の健全化判断比率を公表します

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、次の健全化判断比率を公表します。

決算に基づく健全化判断比率が、「早期健全化基準」や「財政再生基準」以上となった場合には、それぞれ「財政健全化計画」や「財政再生計画」を策定する義務が生じます。

項目	安来市の決算比率	国の早期健全化基準	国の財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	—	12.84	20.00	地方公共団体の最も主要な会計である「一般会計」等に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。 実質赤字比率＝一般会計等の実質赤字額÷標準財政規模
連結実質赤字比率	—	17.84	30.00	公立病院や下水道など公営企業を含む「地方公共団体の全会計」に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合で表したものです。 連結実質赤字比率＝連結実質赤字額÷標準財政規模
実質公債費比率	16.1	25.0	35.0	地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。 3カ年の平均で計算します。
将来負担比率	128.8	350.0		地方公共団体の借入金（地方債）、公営企業、出資法人等を含めた普通会計の実質的負債の標準財政規模に対する比率です。

※実質赤字比率、連結実質赤字比率は、ともに黒字のため「—」表示にしています

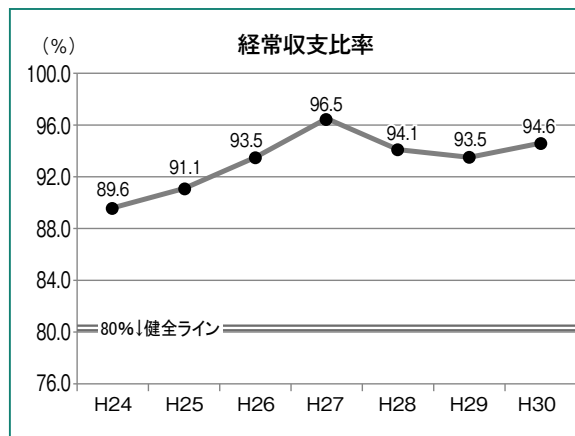
(単位：%)

### 公営企業の経営の健全化に向けた比率

	会計名	比率	経営健全化基準	用語の説明
資金不足比率	水道事業会計	—	20.00	公営企業の事業規模に対する資金の不足額の比率を示し、経営状況を把握するものです。
	病院事業会計	17.2		
	下水道事業特別会計	—		
	電気事業特別会計	—		

※資金不足額が発生していない会計は「—」表示となります

(単位：%)



**主な財政指標は？**  
 財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度を1・1ポイント上回る94・6%となりました。分子となる経常一般財源は微減ですが、分母である経常一般財源歳入が普通交付税の減によって大幅な減となり、経常収支比率の増の要因となりました。  
 実質公債費比率(3カ年平均)は前年度比0・2ポイント増の16・1%となりました。これは、国の地方債許可基準の18%を下回る水準を保っています。  
 将来負担比率は前年度比1・9ポイント減の128・8%。この比率も健全な水準内で推移しています。

※財政指数の詳細は、市ホームページをご覧ください。



報告  
2

# 平成 30 年度に取り組んだ主な事業です



### 史跡富田城跡整備事業

53,865 千円

平成 30 年度は千畳平・馬乗馬場地区の園路や石垣等、山中御殿地区の大土塁等を整備しました。また、歴史資料館の改修を行いました。



### 中海ふれあい公園整備事業

123,117 千円

令和 2 年度に完成予定の同公園東エリアの総面積は 21ha。昨年 10 月には、大型遊具等がある子ども広場の一部を開園しました。



### 戦国尼子フェスティバル事業

8,921 千円

第 7 回尼子一族集会および戦国尼子フェスティバルを 9 月に開催。全国山城サミット安来大会との同時開催で全国から注目を集めました。



### 防災公園整備事業

269,327 千円

安来庁舎南側に防災研修棟と市民広場を整備しました。災害時には一時避難所になり、人口が多い市街地の防災機能を強化しました。



### 観光施設整備費

52,432 千円

主な整備として広瀬絣センターの改修を行いました。増加傾向にある富田城跡への観光客の受け入れ体制の充実を図りました。



### 外国語指導事業

22,580 千円

外国語指導助手 (ALT) を小・中学校や幼稚園などへ派遣することで、異文化への関心とコミュニケーション能力の向上を図りました。



### 母子保健事業

43,118 千円

風しん等のワクチン接種費用や新生児の聴覚スクリーニング検査の費用の一部助成を市独自で行い、安心して産み育てられる環境づくりに取り組みました。



### 就農・定住パッケージ事業

37,031 千円

UI ターン者による新規就農にあわせ定住を進めるため、就農者向けに定住促進住宅を整備しました。農業後継者の高齢化と担い手不足の課題解消を目指します。



### 元気いきいき補助事業

3,638 千円

市民の皆さんが中心となった地域づくり活動に対し支援を行いました。平成 30 年度は、イベントや学習活動など 24 事業が市内各地で行われました。